

2018年度 海外研修・研究等助成金 募 集 案 内

一般財団法人 企業経営研究所について

一般財団法人企業経営研究所は、1982年7月に、スルガ銀行の創立90周年を記念し、地域経済社会の新しい方向を模索し、中堅・中小企業経営の健全な発展、育成に寄与することを目的として設立されました。

当研究所では、設立趣意に則り、地域の中堅・中小企業の実証的調査研究や企業の戦略的行動に必要な情報の提供などを通じて、企業の健全な発展と育成に努めてまいりました。さらに、1996年4月より、国際交流支援事業として次の4つの事業を追加しました。

- 1.外国人・研修研究等助成事業 2.海外研修・研究等助成事業
- 3.国際交流功労顕彰事業 4.国際交流活動助成事業

これらの事業を通じて、地域経済社会の国際化に対応する人材を育成するとともに、人、物、情報、技術、文化などの内外の交流活動を積極的に支援しております。

- 名 称 一般財団法人 企業経営研究所
- 設 立 1982年7月26日
- 理事長 内山 義郎
- 所 長 磯邊 剛彦(慶應義塾大学経営大学院 教授)
- 所在地 〒411-0036 静岡県三島市一番町15番26号
ミシマ・スルガビル4F

海外研修・研究等助成金について

この助成金は、海外において技術や技能、知識などを修得または研究し、帰国後、教育の現場でそれを活かし、子供達に夢や感動を伝え、分かち合うことを志す方を対象に助成するものです。

近年の助成対象 研修・研究テーマ

- グローバル化する社会に向けた資質・能力の育成
～子供の関心・知的好奇心と「人・もの・こと」をつなぐ工夫を通して～
- シチズンシップ教育 ～主体性と社会性を育む オランダの教育から学ぶ～
- スポーツ・体育の先進国ドイツから、ヨーロッパ的体育教育と、日本的体育教育のあり方を考える
～2020年オリンピック・パラリンピック教育を見据えて～
- 情動調整に視点を当てることによる、教育的ニーズのある子どもたちの能動的な参加を目指した支援
～アメリカの SCERTS(サーツ)モデルを適用した事例に学ぶ～
- 海外留学を支援するための体制づくり
～「海外に行きたい!」という生徒のやる気と進路を結びつける留学支援～
- 工業高校生による海外就労体験実施の試み(台湾編)
- 小中学校連携のための授業改善について ～イエナプラン教育の視点から～



2018年度 海外研修・研究等助成金 応募要綱

助成金交付額	1件当たり最高50万円
対 象 テ ー マ	海外において技術や技能、知識などを修得または研究し、帰国後、教育の現場でそれを活かし、子供達に夢や感動を与え、分かち合う趣旨・内容であること。 (ただし、海外での活動内容が旅行会社の設定による海外研修ツアー等への参加にとどまる場合は、助成の対象となりません)
応 募 資 格	静岡県内の小学校、中学校、特別支援学校、および高等学校に常勤する教職員の方で、次の事項のすべてに該当する方を対象とします。 (1) 海外での研修、研究を志す意欲旺盛な方 (2) 原則として年齢50歳以下、勤続3年以上の方 (3) 勤務先学校長の推薦が得られる方 ※なお、各学校において複数名応募いただいても結構です。
助成対象期間	12ヵ月以内(原則として決定通知後6ヵ月以内に研修開始)
応 募 方 法	下記の必要書類を当研究所まで郵送にて提出して下さい。 (1) 助成金交付申請書(所定様式※) (2) 勤務先学校長の推薦書(所定様式※) ※助成金交付申請書および推薦書は、当研究所のホームページよりダウンロードしてご利用下さい。 URL: http://www.srgi.or.jp
採 用 予 定 数	若干名
募 集 締 切 日	2018年5月31日(木) 締切当日消印有効
選 考	(1) 当財団の選考委員会にて審査・選考の上、理事長が決定します。 (2) 選考の結果は、2018年6月中旬(予定)に、申請者・推薦者宛書面にて通知します。

◎交付対象者への注意事項

交 付 方 法	助成金は、原則として一括交付します。
報 告 の 義 務	対象となる研修活動の開始および終了時に、下記の書類を提出していただきます。 (1) 研修開始通知書 (2) 助成金使途報告書・研修報告書 (3) 研修レポート

2017年度

助成対象者 助成内容（研修報告）

グローバル化する 社会に向けた 資質・能力の育成

～子供の関心・知的好奇心と

「人・もの・こと」をつなぐ工夫を通して～

浜松市立城北小学校 教諭 藤岡 政哉



1223 番校付属幼稚園にて



1223 番校の集会所にて

はじめに

21 世紀を生きる子供たちに求められる資質・能力として「グローバルな視野をもつこと」があげられる。子供たちが未来形成を有意味なものとして実現できるように自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図ることが大切となる。社会の急速な変化の中で、これからの学校教育においてどのような資質や能力を育成すべきか研究していきたいと考えた。学校教育において、グローバル化する社会において世界の中でも取り組みの早かったロシアの教育を吸収し、よりよきものを日本の子供たちに還元したいと考え研修に応募した。

モスクワ市内の 1223 番校、付属幼稚園に訪問

まず最初に幼稚園の園長から聞いたことはソ連時代からの「氷の壁」を取り除きたいという思いで、ロシア全体がグローバル化に向けて取り組んでいるということだった。英語教育だけでなく日本語教育にも力を入れていて、グローバル化に向けた資質・能力の向上に向けた教育を展開している。

1223 番校は 70 年間、英語学校と呼ばれていた。学校はオリジナルのカリキュラムに基づき授業を行っている。幼稚園児から英語教育を行い、英語は 6 歳から、日本語は自由科目で 9 歳から始まる。ロシア語はもちろんのこと、英語は必修であり、フランス語とドイツ語が選択必修、更に中国語、韓国語、日本語等から選択する。つまり、少なくとも母国語を含め 4 カ国語を習得するということだ。

モスクワ市内で出会った中学生くらいの学生に話かけると、ほとんどの子供が英語を話すことができた。モスクワ全体で英語の教育のレベルの高さを感じた。1223 番校は幼稚園から 12 年生までが学ぶ国立大学附属である。生徒たちは高い英語力を持ち、何より自分の意見を英語で話そう、話したいという積極的な姿勢があった。

社会教育施設を実地調査して

「赤の広場」や「クレムリン」、「エルミタージュ美術館」において実地調査を行った。そこには、ロシアの子供たちも学習するために来ていた。グローバル教育を推進していくうえで、自国の文化を理解し、大切にすることを意識していた。日本と同様に、幼稚園から大学生まで幅広く見学に来ていることを学芸員に教えていただいた。見学する学校の生徒は、グローバルな視点・思考を身に着けることを目的としている。1223 番校でも、1 ヶ月に 1 回は世界遺産である「ノボデビッチ修道院」や「クレムリン」、「トレチャコフ美術館」などに見学に行き、教養を高める教育を実施している。

おわりに

ロシアのグローバル化する社会に向けた取り組みを調査して感じたことは、英語教育だけでなく他の言語にも力を入れたり、学校や地域が協力して子供たちを教育していこうとする強い姿勢を感じることができた。国をあげてグローバル社会に通じる人間を育てようとする体制が整っていると思った。

貿易大国であるロシアにとって国際化は重要なことであり、国をあげて語学力にも力を入れていることを切実に感じた。ソビエト連邦崩壊後、ロシアとなり日々進歩を積み重ねている。今後、英語というものは国際社会に生きる子供たちにとって、より一層世界共通語となると感じた。

お問い合わせ先

一般財団法人 企業経営研究所
(国際交流支援事業 事務局)

〒411-0036 静岡県三島市一番町15番26号

ミシマ・スルガビル4F

TEL:055-981-3033 FAX:055-981-5888

E-Mail:webmaster@suruga-institute.jp

URL:<http://www.srgi.or.jp>